

「木曾路はすべて山の中である。」島崎藤村の著書「夜明け前」の冒頭の一節です。

木曾郡木曾町福島は、そんな山の中にある木曾路の中心地です。

木曾町福島には現在も福島関所跡が残っています。

関所は、関が原の合戦後に作られるとともに徳川家康によって木曾代官に登用された山村氏が直接管理していました。

当時は東海道の箱根・荒居、中仙道の碓氷の関所とともに最も重要な関所でした。



福島関所跡



山村氏の代官屋敷

た。

関所は、木曾川の東岸（左岸）に置かれ、急峻な尾根筋が東側から迫り、木曾川へ三十メートルもの崖になっていて、通過する場所が狭く、関所を置くには絶好の場所でした。

初めは軍事的な意義を持って設けられたようですが、大阪夏の陣が終わり天下統一の後は「出女・入鉄砲」といって、江戸方面から出てくる女性と、江戸に入る鉄砲を取り締まることが大きな目的とされました。

古来より木曾地方の政治経済の中心地であった木曾町福島ですが、広い平野部がなく、町なかの至る所に急坂と崖があり、木曾川沿いには崖屋造りと呼ばれる家々が並ぶとともに両側の山の中腹まで家が建ち並び、木曾路の宿場町の中でも独特の景観を生み出しています。

イベントは、春の興禪寺の時雨桜、夏の「天下の奇祭」水無神社の御輿まくり、木曾踊り、木曾義仲旗挙げまつり、秋の関所まつり、冬の雪灯りの散歩路など満載。食べ物には、そば、木曾の清流で育ったイワナ、ヤマメ、ワカサギ、五平餅、そば饅頭、ほお葉巻き（ほお葉で包んだお餅）、すんき（野沢菜を乳酸菌醗酵させた無塩の漬物）とおいしいものがいっぱい、また、木曾路の温泉の約三分の二が木曾町に集まり、天然温泉の肌触りで疲れた体も癒され、町なかにある木曾川親水公園内にある「二本木の湯」を源泉とする無料の「きそふくしま温泉足湯」や健康歩道で足をリフレッシュし、町内の歴史探訪を堪能し、日頃の疲れを癒してみてもいいでしょうか。



木曾川沿いの崖屋造り



雪灯りの散歩道



木曾福島温泉足湯

アクセス方法

【公共交通機関】

JR中央西線木曾福島駅下車

【自家用車】

中央自動車道中津川IC（国道十九号線）
 線経由約一時間十五分、長野自動車道塩尻IC（国道十九号線）
 線経由約五十分